

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成25年1月11日

【四半期会計期間】 第33期第1四半期(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 取締役社長室長 白鳥 弘之

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第32期 第1四半期 連結累計期間		第33期 第1四半期 連結累計期間		第32期	
	自 至	平成23年9月1日 平成23年11月30日	自 至	平成24年9月1日 平成24年11月30日	自 至	平成23年9月1日 平成24年8月31日
売上高 (千円)		3,744,996		3,664,359		14,794,674
経常利益 (千円)		201,345		239,952		673,908
四半期(当期)純利益 (千円)		129,217		118,396		569,044
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		122,121		129,372		570,189
純資産額 (千円)		5,460,740		5,907,659		5,849,209
総資産額 (千円)		17,835,936		17,617,494		17,472,874
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)		10.84		9.93		47.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		30.6		33.5		33.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。
なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期（平成24年9月1日～平成24年11月30日）におけるわが国の経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に緩やかな回復基調がみられたものの、欧州債務問題による海外経済の減速や円高の継続、国内の厳しい雇用情勢や所得環境による個人消費の低迷など、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループが属する健康食品業界は、消費者の健康維持・増進、病気予防の観点から需要が高まっており、今後超高齢化社会を迎えるにあたり活躍の機会が更に増大するものと予測されます。

このような状況の下、当社グループはOEM部門においてダイエット商品を中心に順調に推移すると共に、海外部門でもアジア地域を中心に好調な業績を挙げたものの、市場をめぐる競争激化により直販部門が苦戦し、当第1四半期連結売上高は3,664百万円（前年同期比2.2%減）となりました。

損益面については効率的な広告宣伝活動に加え、新工場の減価償却費負担が軽減されたことなどにより、営業利益260百万円（前年同期比23.4%増）、経常利益239百万円（前年同期比19.2%増）となり、四半期純利益は法人税法の改正により税負担が増加したことで、118百万円（前年同期比8.4%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ヘルスケア事業 ・OEM部門

当社グループの主力事業であるOEM部門は、既存取引先からの受注堅調に加え、ダイエット商品の伸長などにより、売上高は前年同期比1.7%増となりました。引き続き、関節系、アイケア系、美容系の素材が好調に推移し、通販業関係先を中心に安定した売れ行きを示しております。また、営業担当の人材育成にも注力しているほか、生産部門においては放射能の風評被害防止のため検査体制の充実と運用の徹底を図り、国内外の顧客の安心と信頼性確保に努めました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、長期化する円高、放射能汚染による検疫強化や風評被害など引き続き厳しい環境の下、主力商品であるコラーゲンドリンクの販売が好調を維持しており、新商品である馬プラセンタの販売も開始いたしました。また、香港及び台湾での健康食品の売れ行きも好調に推移し、売上高は前年同期比48.2%増となりました。

・通信販売部門

人気商品のお試しサイズを商材としたTVショッピング・新聞広告を積極的に展開し、新規顧客の獲得は引き続き好調を維持しております。また、新商品の投入、リピート購入促進DMを実施するなど積極的な営業活動を行いました。個人消費の低迷、購入単価の低下などにより、売上高を伸ばすまでには至りませんでした。

・卸販売部門

前期に続き不採算商品の整理を行ったことにより、当部門全体では減収となりました。一方、利益率の改善のため進めているAFCブランド商品の拡販については、980円シリーズが前年同期比185.9%増と好調に推移したほか、定番商品も堅調な売れ行きとなりました。

・店舗販売部門

百貨店テナント店舗を販売拠点とする当部門は、業界の低迷や今なお続く放射能汚染による国産ブランドへの不信感が影響する中で、前期より販売好調の飲料「国産野菜の極」は累計販売数100万本を越え、9月に姉妹品の飲料「国産トマトの極」を上市し好評を得るなど、新商品の投入も積極的に行いました。また、本社店舗間の迅速な情報伝達ツールとして全店舗にiPadを導入し、より高度な販売体制の確立に取り組みましたが、自然食品の苦戦などにより前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高3,310百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益322百万円（前年同期比7.3%増）（全社費用調整前）となりました。

医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤40品目について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、同業他社の製品と比べ効能効果の同等性が極めて高いこと及び患者さんの経済的負担（医療費の自己負担）が小さいことなどを説明してきました。

また、一般用医薬品事業についても、新製品・リニューアル製品の投入、積極的な営業活動、及び販売促進活動などを行いました。特にドラッグストアの商品担当者に対して、当該製品の医療現場での臨床例などを中心に情報提供活動を展開してきました。

しかしながら、薬価改定による販売価格の低下の影響は大きく、売上高は354百万円（前年同期比10.8%減）となりました。一方損益面については経費の節減効果により、営業利益28百万円（前年同期比107.7%増）（全社費調整前）となりました。

(2) 財政状態の分析**流動資産**

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ152百万円増加し、8,477百万円となりました。この増加要因は主として、受取手形及び売掛金が156百万円減少した反面、現金及び預金が179百万円、仕掛品が72百万円増加したことによるものであります。

固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ8百万円減少し、9,140百万円となりました。この減少要因は主として、製造機械の取得などにより有形固定資産のその他が65百万円増加した反面、償却により建物及び構築物が56百万円、のれんが18百万円減少したことによるものであります。

流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ219百万円減少し、6,844百万円となりました。この減少要因は主として、支払手形及び買掛金が156百万円、流動負債のその他が115百万円、未払法人税等が72百万円増加した反面、短期借入金が596百万円減少したことによるものであります。

固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ306百万円増加し、4,865百万円となりました。この増加要因は主として、長期借入金が328百万円増加したことによるものであります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ58百万円増加し、5,907百万円となりました。この増加要因は主として、四半期純利益の計上により利益剰余金が58百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は20,750千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年1月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,189,720	12,189,720	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	12,189,720	12,189,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年9月1日～ 平成24年11月30日		12,189,720		1,405,498		1,482,684

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 269,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,919,500	119,195	
単元未満株式	普通株式 520		
発行済株式総数	12,189,720		
総株主の議決権		119,195	

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	269,700		269,700	2.21
計		269,700		269,700	2.21

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年9月1日から平成24年11月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年9月1日から平成24年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,054,042	4,233,996
受取手形及び売掛金	2,038,597	1,882,591
商品及び製品	910,225	925,333
仕掛品	523,523	596,046
原材料及び貯蔵品	631,038	658,343
その他	220,547	233,323
貸倒引当金	53,459	52,390
流動資産合計	8,324,515	8,477,244
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,444,718	3,388,167
土地	3,784,329	3,778,468
その他（純額）	1,128,162	1,193,900
有形固定資産合計	8,357,210	8,360,536
無形固定資産		
のれん	26,255	7,907
その他	65,677	62,678
無形固定資産合計	91,932	70,586
投資その他の資産		
その他	706,736	716,686
貸倒引当金	7,521	7,558
投資その他の資産合計	699,215	709,127
固定資産合計	9,148,358	9,140,250
資産合計	17,472,874	17,617,494
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,601,859	1,758,532
短期借入金	4,381,446	3,784,808
未払法人税等	65,291	138,147
賞与引当金	95,000	125,698
ポイント引当金	53,000	54,000
その他	867,566	983,125
流動負債合計	7,064,163	6,844,312
固定負債		
社債	550,000	550,000
長期借入金	2,667,283	2,995,634
役員退職慰労引当金	343,810	349,496
退職給付引当金	163,727	169,665

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
負ののれん	5,069	4,928
その他	829,610	795,798
固定負債合計	4,559,501	4,865,523
負債合計	11,623,665	11,709,835
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,482,684	1,482,684
利益剰余金	3,219,468	3,278,264
自己株式	198,961	210,283
株主資本合計	5,908,690	5,956,164
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,481	48,504
その他の包括利益累計額合計	59,481	48,504
純資産合計	5,849,209	5,907,659
負債純資産合計	17,472,874	17,617,494

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)
売上高	3,744,996	3,664,359
売上原価	2,498,722	2,476,396
売上総利益	1,246,274	1,187,962
販売費及び一般管理費	1,035,387	927,623
営業利益	210,886	260,338
営業外収益		
受取利息	42	22
受取配当金	818	1,883
負ののれん償却額	9,462	140
助成金収入	2,767	7,446
貸倒引当金戻入額	6,127	-
その他	7,854	6,280
営業外収益合計	27,072	15,774
営業外費用		
支払利息	35,092	33,260
その他	1,521	2,900
営業外費用合計	36,613	36,160
経常利益	201,345	239,952
特別利益		
有価証券償還益	1,730	-
特別利益合計	1,730	-
特別損失		
固定資産除却損	2	1,042
減損損失	-	5,861
特別損失合計	2	6,903
税金等調整前四半期純利益	203,074	233,048
法人税、住民税及び事業税	82,437	131,378
法人税等調整額	8,580	16,725
法人税等合計	73,856	114,652
少数株主損益調整前四半期純利益	129,217	118,396
四半期純利益	129,217	118,396

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	129,217	118,396
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	7,096	10,976
その他の包括利益合計	7,096	10,976
四半期包括利益	122,121	129,372
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	122,121	129,372
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
受取手形割引高	115,982千円	97,070千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)
減価償却費	160,730千円	140,519千円
のれんの償却額	11,507千円	18,206千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成23年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月25日 定時株主総会	普通株式	119,200	100	平成23年8月31日	平成23年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月27日 定時株主総会	普通株式	59,599	5	平成24年8月31日	平成24年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成23年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,348,048	396,947	3,744,996
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	3,348,048	396,947	3,744,996
セグメント利益	300,835	13,580	314,416

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	314,416
全社費用(注)	103,529
四半期連結損益計算書の営業利益	210,886

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,310,284	354,074	3,664,359
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	3,310,284	354,074	3,664,359
セグメント利益	322,727	28,212	350,939

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	350,939
全社費用(注)	90,601
四半期連結損益計算書の営業利益	260,338

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10円84銭	9円93銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	129,217	118,396
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	129,217	118,396
普通株式の期中平均株式数(株)	11,920,015	11,917,768

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 1月11日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 向 眞生

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大須賀 壮人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC - HDアムスライフサイエンスの平成24年9月1日から平成25年8月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年9月1日から平成24年11月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成24年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の平成24年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。